



平成 28 年 3 月 30 日

神奈川県教育委員会 殿

神奈川県スポーツ推進審議会  
会 長 小早川 ゆり

神奈川県スポーツ振興指針「アクティブかながわ・スポーツビジョン」の  
検証に関すること（答申）

平成 26 年 11 月 13 日に諮問を受けた標記の件について、これまで様々な見地からの意見を踏まえて協議を行ってまいりましたが、今般、5 年間の総合評価としてまとめられた別添の「神奈川県スポーツ振興指針『アクティブかながわ・スポーツビジョン』総合評価」(案) について、概ね妥当なものと認め、次のとおり意見を述べます。

- 成人の週 1 回以上のスポーツ実施率については、目標を達成できませんでしたが、国における同様の調査結果からも、社会全体としてスポーツ実施率の向上が難しい状況があると考えます。今後、より多くの人々が運動・スポーツに取り組めるような施策の展開が図られることを期待します。
- 子どものスポーツ実施率、非実施率についても、目標には届いていません。今後、全く運動しない子どもへのアプローチなどを検討し、生涯にわたって体力の向上に努めることができるよう、新たなスポーツ推進計画に盛り込むことを要望します。
- 生涯を通じたスポーツ活動の推進（アクションプログラム）については、ライフステージに応じた施策により様々な事業に取り組んできており、全体として評価できるものと考えます。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、障がい者スポーツがますます重要となることから、それぞれのライフステージにおいて、障がいの有無にかかわらず、誰もがスポーツを楽しめるような視点が重要になると考えます。
- スポーツ活動を拓げる環境づくりの推進（サポートプログラム）については、全庁的な連携を図りながら事業を進めることで、スポーツの裾野の拡大や競技力の向上が図られており、目標指標の達成状況でも一定の成果が見られます。今後、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会などを契機として、競技団体との連携によるアスリートの育成はもとより、障がい者スポーツの機会の拡大や理解の促進、指導者の育成や審判員の養成等に取り組み、それをレガシーとして生涯スポーツがより一層推進されることを期待します。